

グリーン四国

四国森林管理局



高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2000 四国山の日
FAX 088-821-4834
ホームページアドレス <http://www.shikoku.kokuyurin.go.jp>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1060 2008年7月号



下層に広葉樹が生育するヒノキ人工林



建築学科在籍学生による間伐体験（H19年度の森林環境教育）

四国森林管理局における「美しい森林づくり推進国民運動」への平成二〇年度の対応に当たっては、民有林・国有林を通じて間伐等森林整備が進むよう取り組むことはもとより、森林・林業に対する国民の皆さんの理解が醸成されるよう国民運動の普及・PRに取り組んでいくこととしています。
(二項へ関連記事)

四国の「美しい森林づくり推進国民運動」の普及・PRの取組



「グリーン四国」に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています。

四国の「美しい森林づくり」推進国民運動の普及・PRの取組

〈企画調整室・指導普及課〉

四国の「美しい森林づくり推進国民運動」の普及・PRの取組について紹介します。

美しい森林づくりを進めていくためには、森林整備や木材利用の重要性について、国民の皆さんに理解していただくことが必要です。

このため、多様な森林づくりや地域材利用を軸とした森林・林業・木材産業の再生に向けた取組について広く紹介する普及啓発活動等を、民有林の関係者やNPO等の方々と連携して実施することとしています。



H19年度の「みんなで森林づくり」の様子

一 四国山の日イベント
 四国四県の豊かな生活環境や森林の多面的機能の高度発揮の実現に向けて、平成一六年一月に四国四県と四国森林管理局とでなされた「四国の森づくりに関する共同宣言」に基づく取組を具体化していくため、平成二〇年度は、一月一日・二日に高知県香美市の甫喜ヶ峰森林公園等において、地域住民の方や子ども達など多様な主体の参加を得て、①「多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進」に係る間伐体験や林業地の見学、②「木材の利用推進」に係る地域材利用施設の見学会、③「森林環境教育活動の推進」に係る森林教室やネイチャーゲーム等の内容を計画しています。

二 美しい森林づくりに関するシンポジウム(仮称)、地域材利用促進のためのシンポジウム及び地域材発見ツアー
 平成二〇年度の新たな取組として、民有林関係者や一般市民の方を対象に、「美しい森林づくりを指して」をテーマとして、森林・林業の現状や美しい森林づくりについての取組・期待等について討論するシンポジウムを平成二〇年九月に計画しています。

また、消費者や林業・木材産業関係者を対象に、地域材利用を促進するための消費者ニーズの把握と木材利用の重要性等を情報発信するシンポジウムを平成二二年



H19年度の地域材発見ツアー

の建築を希望している方や木造住宅に関心のある方等を対象に、地域材を使った施設(林道・治山施設及び木造住宅)に直接ふれあうツアーを平成二〇年一〇月に計画しています。

三 四国の森林づくり子どもサミット

「四国の森づくりに関する共同宣言」の取組の一環として、平成一八年度から、四国の森づくり活動(多面的機能の発揮に向けた森林整備の推進、木材の利用推進及び森林環境教育活動の推進)を積極的に推進している学校、団体等を「四国山の日賞」として選定しています。

こうした取組みを発展させる形として、平成二〇年度においては、新たに「四国山の日賞」の「森林環境教育活動の推進」の分野で受賞した学校等を主体として、各学校等が取り組んでいる活動報告、実践活動や森林環境教育の推進に向けた意見交換、子どもから見た四国の森林づくりへの提言を行う

二月に計画するとともに、平成一九年度引き続き、地域材を利用した木造住宅

子どもサミットを平成二〇年八月二六・二七日に計画しています。

四 建築学科在籍の学生のための森林環境教育

平成一九年度に引き続き、将来、地域材利用の推進役、消費者への情報発信役を担う建築学科に在籍している学生等を対象に、木造住宅設計、木材の特性等について学ぶとともに、地域材を利用した木造住宅の見学、国有林の間伐体験、木材搬出現場の見学等を行う森林環境教育を平成二〇年八月に計画しています。

技術開発課題に熱い意見

第一回技術開発委員会開催
 〈指導普及課〉

六月六日、局において、今年度一回目の技術開発委員会を開催しました。

技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺伝資源、民有林管理経営の専門家等の外部委員から、平成一九年度に実施した技術開発調査の結果及びそれらを踏まえた今後の進め方等についての意見を聴く委員会です。

当日は、「皆伐跡地における針広混交林化への更新技術の開発」をはじめ一〇課題について審議

を行い、委員から専門的見地による貴重な意見等を頂きました。なお、委員会での意見は、技術開発課題の取組に活かしていくこととしています。

『森と水とエネルギー』

(親子で体験・学習)
 〈指導普及課〉

六月一四日、四国電力株式会社高知支店及びオイスカ高知県支局との共催により「ふれあい親子体験ツアー」を開催しました。

これは、六月の環境月間に合わせて、小学生と保護者を対象に「森と水とエネルギー」をテーマに、森林の役割やエネルギーについての理解を深める目的で行っているもので、今回で二回目を迎えます。

当日は、一般公募の二〇組の親子が参加しました。

本川プラチナセンターでの木工教室では、森林の働きなどを学び、その後ヒノキの円盤に、この日に植栽したクスギなどの葉を描いた「オリジナル樹名板」を作成をしました。

その後、いの町桑瀬の道の駅「木の香」の河原に移動し、アメゴを放流しました。子どもたちは、稚魚の放流が初体験とあって大歓声を上げていました。

いの町脇の山にある本川発電所では、発電所の仕組みや役割



親子で植樹を体験

についてビデオ等を使って学習し、実際に発電所の内部を見学しました。普段見ることでできない発電所内の施設の大きさなど興味深いものでした。

最後に、嶺北森林管理署管内の松枝山国有林において、クヌギなど八〇本を植樹し、その脇には、木工教室で作成した真新しい「オリジナル樹名板」を立てました。

参加者からは、「初めて木を植えました。あの木が大きく育ってくれたらとても未来があつて楽しいと思います。」また、「自分たちで樹名板を作つて植樹を行う、良い一日になりました。」などの感想が聞かれ、親子での共同作業で楽しく過ごせたようです。

今回のイベントでは、これらの体験を通して、「森と水とエネルギー」への理解も更に高まったのではないかと思います。

今後とも、環境月間に合わせて継続的に取り組んでいきたいと考えています。

職員定期表彰式

〈総務課〉



永年勤続表彰受賞者

○一級精勤章（三八名）

- | | |
|--------|--------|
| 局長 | 中山 尊裕 |
| 計画部 | 川上 利次 |
| 総務部 | 佐賀 賢二 |
| 森林整備部 | 山崎 忠男 |
| 治山課 | 真鍋 宏二 |
| 技術センター | 徳満 千秋 |
| 香川所 | 佐竹 正光 |
| | 高井 雄司 |
| | 佐々木 一夫 |
| 愛媛署 | 森 陽治 |
| | 山本 基 |
| | 奥村 剛 |
| | 喜多 芳樹 |
| | 曾我部 稔 |
| | 松崎 哲也 |
| | 泥谷 教夫 |
| | 山平 久修 |
| | 小原 英基 |
| | 池田 誠雄 |
| | 伊賀 守 |
| | 坂本 久男 |
| | 矢間 重清 |
| | 山本 均 |
| | 竹内 一喜 |
| | 武田 昌運 |
| | 山中 俊一 |
| | 横山 義伸 |
| | 山中 勇 |
| | 野々原 幹男 |
| | 溝淵 春行 |
| | 和泉 由喜 |
| | 佃 悦幸 |

○二級精勤章（七名）

- | | |
|-----------|-------|
| 職員厚生課（共済） | 吉川 直美 |
| 計画部 | 瀬崎 清武 |
| 総務課 | 澤村美穂子 |
| 技術センター | 梶原 浩二 |
| 愛媛署 | 増田 一幸 |
| 四万十署 | 坂本 庄志 |
| 高知中部署 | 渡邊 憲治 |
| 安芸署 | 柴田 知秀 |
| 基 | 飯田 富男 |
| 基 | 横山 安市 |
| 基 | 手嶋 隆 |
| 基 | 西尾 則好 |
| 基 | 川村なぎさ |

伐採する時の「ツル」って、なあに

〜森林ボランティア活動入門講座を開催〜
 〈指導普及課〉

近年、国民の三人に一人はボランティア活動への参加意欲を持っているなど、国民の社会参加意識やボランティア活動への理解と環境問題への関心が高まりつつある中、局では、六月二二日、新たに森林ボランティア活動を志す方を対象とした「森林ボランティア活動入門講座」（延べ三日間の一日目）を研修室で開催しました。

講座には、高知県内から女性を含めて、二名の参加がありました。当日は、局職員から森林・林業分野の基礎知識等として、「森

林・林業・木材産業を取り巻く現状」、「森林ボランティア活動のすすめ」及び「安全対策（造林、伐採）について」の講義を、また、こうち山の日ボランティアネットワーク事務局長 永野俊彦氏から「森林ボランティア活動の実践例」についての講義を行いました。

受講者は、聞き慣れない林業用語が紹介される中で、各講座とも熱心にメモをとり、また、伐採する時の受け口、追い口のつくり方、ツルの残し方などについて積極的に質問していました。

この講座は、今後、九月に林業機械・器具の取扱いと間伐木の選定についての実習を行い、最終回の十一月には、木材利用、植物及び初期の救急法について学び終了します。

講座終了後は、それぞれの地域署等において、森林ボランティアとしての活躍を期待しています。

〔注〕ツルとは、木が倒れていく

ときの支点となり、その方向を定める働きをします。

